

1995年12月25日発行
 毎月25日発行(予定)
 第1巻第1号(通巻1号)
 第25種郵便物認可
 発行人 藤原暢子
 編集長 のびのぶ
 発行所 のびのぶ社
 定価 購者の収入によって変則

クリスマス MONTHLY

△云員員苗券生木のお知らせ



NOBUKOB
 X'mas
 TREE
 IN
 1995

只今、日本クリスマス研究会では、各地域で正しいクリスマスをお祝いして下さる会員を募集しております。特典は今なら、あなたの地域の支局長になれることです。普及のマニュアルや会員獲得のノルマはありません。思う存分好きにやってみてください。

支局長になりたいという方は、日本クリスマス研究所まで、支局長就任のあいさつ状をお持ちいただくか、郵送してください。お待ちしております。

(財)日本クリスマス研究所
 東京都江戸川区西葛西6-1-19
 TEL&FAX 03-5696-1549
 FAX 03-5696-1024

待望の月刊クリスマス創刊なる！

年末押し迫る12月。とうとう国民の悲願だった月刊クリスマスが、総合出版社「のびのぶ」社から創刊された。

同誌はB4サイズ、カラー(発行部数が伸びない場合はモノクロに変更予定)。クリスマスとそれに関する楽しく、かつ、役に立つ情報が満載。創刊日より売り切れ続出が想像される。

ハードなスケジュールの合間を縫って、月刊クリスマス編集長の編纂にあたるのびのぶ編集長によれば、「これがわたくしのこの世のなかに生まれてきた使命でしゅから」ということである。

誠にうれしく、明るいニュースが年末に飛び込んで来たわけだが発行の存続はのびのぶ編集長の体力と皆様の投稿にかかっているとのこと。このようなすばらしい月刊誌の発行を国民共々、喜びのびのぶ編集長の検討と健康を祈るとともに、どんな原稿を投稿をしていくべきである。

尚、月刊クリスマスでは、ボキヤブラリーの少ないのびのぶ編集長に代わって、原稿チェックや校正をしてくれる副編集長を募集しているとのこと。応募多数の場合は抽選になるので、足を早めてもらいたい。

日本クリスマス研究所所長 栗須増子氏から 月刊クリスマスへの祝電



この度は月刊クリスマス創刊おめでとうございます。日本クリスマス研究所を設立して、1年。日本の明るく正しいクリスマスの実現のために脳目も振らず今日まで歩んで参りました。

次第に皆様からのご賛同(強引にですが)も得、気が付けば日本をはじめ海外にまで、日本クリスマス研究所の支局が設立されています。これもひとえに皆様のおかげ。感謝してもしきれぬものがございます。じき、クリスマスを迎えてしましますが、わたくしたちの使命はまだ、続きます。

1年中、クリスマスツリーを飾っておいても、「片付けの時間が無いの?」ほりかぶつてるよ! などと言われることなく、日本の皆様が1年中クリスマスを楽しめるようになるまで、わたくし血を吐いても頑張る所存でございます。会員のみなさま、そしてひそかに入会を夢みていらつしやるみなさま、わたくし待っておりますのでぜひ、わたくしについていらしてね。

(事務報告) 新年が開けましたら、1995年のクリスマスにおける普及活動の反省会を行なう予定でございます。普及計画をレポートにご持参ください。

産婦人科は ヤッパリ 大和医院
 大阪府 港區 築港 2-6-1
 ☎ 06-571-1370

各支局の支局長から 月刊クリスマスへの祝電

イギリス支局長 小口敏夫氏
 (千葉大学薬学部 講師(留學生))

私は3月に当研究所英国支局長に就任して以来、欧州での情報収集およびその分析に専心している者でございます。さて、皆さんはここ英国や北欧など正しいクリスマスを実践している国々には、蛍光灯が存在しない事実をご存じですか? 彼らは白熱球による間接照明やロソクなどを日常の灯りとして、蛍光灯の使用を頑なに拒んでいるのです。これは蛍光灯の下では光の精霊「イルミネーション」が宿らぬという、太古以来の民間信仰に基づいているのです。また、こちらのすべての車の窓際にはクリスマスイルミネーションが最初から埋め込まれていることは意外と知られていないかもしれせんね。

そして、感謝祭の翌日からは、それを点滅させながら走るものが、業務用として、街は東京デイズニランドながらの光景に包まれています。これらはほんの一例ですが、こちらでは日常すべてがクリスマスに向けて営まれているという事実に大きな感動を覚えます。

大阪支局 岡知子支局長
 (大阪府港区 大和医院院長)

この度は関西支局開設に当り、支局長を拝命し、私に重大な責務が果たせるかと緊張をおしております。日本は和洋折衷のおかげで、クリスマス、お正月という2大イベントに恵まれておりますが、最近の印象としてはクリスマスの方がメジャー化しているように思われます。そんなスキマをついて、12/23天皇誕生日に続き、12/24国民の休日、12/25キリスト誕生の日と祝日が増えるよう祈りつつ早く国会の審議にかかる様、頑張る所存であります。子供のころ、我が家は暖炉が無く(当たり前か?)たしか「いろり」が...煙突もこんな(サザエさんのお風呂のヤツみたいな)のしかなく「サンタさん、どっから入るんやろ?」と真剣に悩みました。クリスマスは私にとっては「夢」であり、また子供のころの「夢」を忘れない為にクリスマスマスの研究はもとより、「夢」も追求していきたいらと思っております。ちなみに今の「夢」はサンタさんの格好でゴルフをすることです。こんな私ですが今後とも、ご指導のほどお願いいたします。

横濱支局長 米山公啓氏
 (聖マリアンナ医科大学 助教授)

私がスウェーデンの王室医院学院に留学している時でした(※編集部注 米山支局長をご存じない方に申し上げます。彼には狂言癖があるので、気にせず読み流して下さい)。12月に入ると中庭のまみの気に数千の豆電球がともります。そのころ交際していた二人ナと肩を寄せ合って、夜遅くまでその点滅する光を見つめていました。私は寒いので、もう帰ろうという、もともと体温が高い二ナが首を振ります。

「私があたたためてあげる」

そう言ってくれ、私を毛皮のコートの中に抱きしめました。雪がチラチラと降っています。

私は即興で詩を作り、彼女に詠んで聞かせました。

雪が降りますシンシンと
 鼻もですズルズルと
 横浜を中心にクリスマスマスの研究にいそしみたいと思っております。

SPA! 支局長 活やく!!! 好評 続々!!!

SPA! 支局長 活やく!!! 好評 続々!!!

人気爆発 連載小説

SPA! 支局長 活やく!!! 好評 続々!!!

「月刊クリスマス」創刊おめでとうございます。いや、この10年、私達日本クリスマス研究会が人知れず続けてきた活動が、このところ各地で実を結び、感無量です。思えば竹下通りで客足を奪われ、閑散としていた表参道に、ライトアップを提案したのも我々の功績。当初は、アホかと一蹴された。最初は、アホかと一蹴された。外へ出ると想像以上に寒い、裏からトメさんのいる部屋の窓へ近付く。

暗い部屋に向かってドンドンと窓を叩いた。静かな夜だから聞こえるはずだ。しかし、反応がない。どう、さんの手足は冷えてきた。耳の遠い人ばかりで、だれも窓を叩く音など分らないのだ。どう、さんは部屋へ戻ろうとしたが、手足が凍ってしまつて動けない。からだはあつという間に冷えていく。どう、さんはそこで動かぬ人となった。

翌日は青空がまぶしくいらいの晴天だった。カーテンを開けた軽いボケのあるおばあさんは驚いた。「あれ、樹水だわ」

どう、さんのからだはキラキラと溶け始めた水で輝いていた。

☆この連載への感想文をお待ちしております。

移人赤いムシの又りり夕又又

高柳タメさんは人気者のおばあさんだった。いつもみんなの話題の中心になる人物だ。

タメさんに気のある石田藤造じいさんがいた。みんなからは「どう、さんと呼ばれてきた。昔から冗談が好きで、いつも受けを狙ったことが好きだった。」

老人ホームのクリスマスは淋しい。それでも、どう、さんが裏の山から切ってきた松の木に、綿や飾りを吊し、豆電球が光っていた。

夕食には、形式だけのクリスマスケーキが出た。かちんかちんのケーキが出され、

「こんなもの喰つたら下痢するよ」とどう、さんは怒ってケーキにフォークを突き刺した。

「そんなことをするとパチが当たりますよ」。タメさんがたしなめる。

どう、さんは、皆を驚かせようとクリスマスプレゼントを100個それはきれいに細工された小さな蠟燭だったが、を配ろうと思つていた。

寝静まったところで、ベッドの下に隠しておいたプレゼントを自分のシューズに包んだ。廊下に静かに出ると、浴衣をサンタクロースのスタイルに縫い変えた服に着込んだ。

外へ出ると想像以上に寒い、裏からトメさんのいる部屋の窓へ近付く。

スタッフ募集! のびのぶ社 月刊クリスマス 体力的にお持ちの 履歴者 送付のこと

編集後記

SPA! 支局長 活やく!!! 好評 続々!!!

月刊クリスマス 広告募集 効果バツグン!!

TEL 03-5696-5490